

Vol.13

しんこし

新越谷病院広報誌

「プラザイムス」は、患者様、ご家族のみなさまに院内やIMSグループの医療活動、病気に関する情報をお伝えするコミュニケーションペーパーです

よろしく
おねがいします

常勤医

内科
(3 B病棟担当)

湯浅 奈央子

ゆあさ なおこ



皆さまはじめまして。2025年10月より着任いたしました湯浅奈央子と申します。これまでは市中病院で、一般内科の入院患者さんの診療などを中心に従事しておりました。今までの経験を活かし、地域住民の方々の医療に貢献していきたいと思ひます。今後共よろしくおねがい致します。

非常勤医

内科
(3A病棟担当)

中村 智栄子

なかむら ちえこ



2025年10月より入職いたしました内科の中村智栄子と申します。患者様の思いに寄り添いながら、安心して過ごしていただける医療を心がけております。微力ながら精一杯努めてまいります。よろしくおねがいいたします。

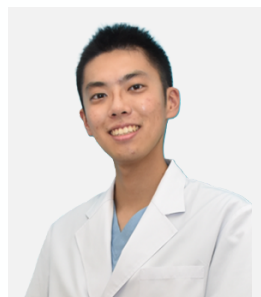
非常勤医

2025年9月より診療開始

形成外科 (火曜・午前)
東京大学医学部附属病院
形成外科より派遣

白石 真土

しらいし まこと

皮膚のケガ、できもの、巻き爪治療、やけど、褥瘡などは **形成外科** にぜひご相談ください

新入職医師のご紹介

常勤医

脳神経内科・一般内科
(外来 月曜午前)
(3 B病棟担当)

鳥谷部 真史

とりやべ まさふみ



はじめまして。10月から勤務させていただくことになりました、脳神経内科の鳥谷部真史(とりやべまさふみ)と申します。脳や神経は、人間らしく生きるための重要な機能を担っています。しかし脳や神経の病気にかかると、治ることが難しい場合や、普段の生活が大変になる場合が少なくありません。病気や障害をもっても、豊かに暮らせるようにお手伝いしたいと思います。よろしくお願い致します。

常勤医

脳神経内科
(2 B病棟担当)
獨協医科大学埼玉医療センター
脳神経内科より派遣

笠島 庸史

かさじま ようじ



神経内科では、からだの動きやことば、感情など“人らしさ”に深く関わる疾患を診ています。新しい環境でたくさんのお会いを通じて成長し、チームの一員として皆さんと一緒に患者さんを支えていければと思っています。気軽に声をかけていただけたらうれしいです。

しんこし
NEWS

栄養科からのおしらせ

食事の時間が
もつと楽しみに

選択メニュー

新越谷病院の新しい取り組みをご紹介します

入院中の食事は、毎日の楽しみのひとつ。今回は8月から始まった「選択メニュー」をご紹介します。

食事を
選ぶことの
メリットは？

✓ 毎日の楽しみになります

自分で選ぶことで、食事が“受け身”ではなく“楽しみなイベント”に。入院生活の中での気分転換にもなります。



赤魚の煮付け

A or B

どちらにしようかな？

患者さんの声
お肉を食べたい気分だったので、ミートローフが選べてうれしかったです。いつもよりたくさん食べられました。

Aメニュー・Bメニュー2種類の献立からお好みの献立をお選びいただく“選択メニュー”を開始いたしました。通常の食事代とは別に+33円(税込)でお好きなメニューをお選びいただけます。

【対象となる方】

- ・ 常食、エネルギー塩分調整食のかたち・一口大の方
- ・ 嗜好、アレルギー対応のない方
- ・ 水分にとろみ指示のない方

✓ 食べる意欲が高まります

気分にあったメニューを選ぶことで、食欲の向上につながります。

✓ 栄養もしっかりサポート

楽しく食べられることで、必要な栄養素もきちんと摂取でき、回復を後押しします。

ミートローフ

★ 移転情報 ★
2026年10月新築移転予定!

新越谷病院は新築移転し

「イムス埼玉越谷病院」

に生まれ変わります!

新築移転ホームページが完成!

2025年
10月現在

2025年6月



前回に引き続き、ドローンで撮影した建設現場の様子をご紹介します。敷地内には建物の輪郭が少しずつ現れてきました。新病院の完成に向けて、工事は一步步着実に進んでいます。

建設の進捗状況や最新情報は、公開されたばかりの新ホームページでも随時ご覧いただけますので、ぜひチェックしてみてください!



← こちらからHPをチェック!

今後も随時情報をお届けしていきます。

引き続きご注目ください!

Contents

P1 新入職医師紹介
P4 【栄養科】選択メニューp2-3 【リハビリ科】3Dプリンター
移転情報

【特集】 新技術でリハビリをサポート！ 患者一人ひとりに寄り添う道具を、 現場で“つくる”という選択

2025年度、当院リハビリテーション科では3Dプリンターの導入を開始しました。これまで外注や手作業での対応が必要だった自助具・訓練用具の製作が、院内で完結可能に。
今回の座談会では、実際に3Dプリンターを活用している作業療法士・医師・若手スタッフの視点から、現場での活用の実態と今後の可能性について語っていただきました。
※自助具：障害や病気などによる麻痺、加齢による身体機能の低下を原因とする動作の困難を補うための道具や装置のこと

私たちの「新たな武器」～3Dプリンター導入の背景～

司会：本日はお集まりいただきありがとうございます。早速ですが、志田主任、今回3Dプリンターを導入したきっかけは何だったのでしょうか？

志田：はい。近年、他の施設や教育機関で3Dプリンターを使って患者さんの自助具を作る動きが広がっています。当院でも、患者さんの日常生活で本当に役立つものを、より手軽に、そして的確に提供したいと考えたのが始まりです。

司会：なるほど。正門先生、医師の視点からは、この技術にどのような革新性を感じていますか？

正門医師：最大の利点は「その場ですぐに作れること」です。これまで外部業者に依頼すれば1週間以上かかり、治療のタイミングを逃してしまいうこともありました。それが院内で数時間で形になる。これは治療のチャンスを失わないという点で、非常に大きな進歩です。



司会：スピードが治療の質に直結するんですね。

正門医師：その通りです。そして、もう一つ重要なのが「何度も試作（リトライ）できる」点。患者さんの『もう少しこうしたい』という声に合わせて、院内で何度も微調整できる。これは既製品や従来の手作業では難しかったし、時間がかかっていたんですね。技術的にはCAD/CAMと同じで、コンピューター上で設計した形をそのまま作り出せます。

将来的には患者さんの身体の一部をスキャンして、完全にフィットするものを作ることも可能になります。完全なオーダーメイドですね。データに基づいて自動で製作できるので、これまでスタッフが製作にかけていた時間を、より多くの時間を患者さんとのコミュニケーションや本来の訓練に充てることができる。チーム全体の効率が上がり、結果として治療の質を大きく向上させますね。

司会：郡山さんは学生時代に3Dプリンターを研究されていたそうですね。その経験をどう活かしていきたいですか？

【3Dプリンターとは？】

樹脂などを材料に、立体的な形状を1層ずつ積み重ねて製作する装置。CADなどで設計されたデータをもとに、自助具や部品などが短時間で製造可能。

郡山：はい。私は学生時代、3Dプリンターを使ったスマホスタンドを制作するの研究をしていました。3Dプリンターの魅力は、なんといっても「設計の自由度の高さ」です。既存品では対応しきれない細かな要望にも応えられるのが強みです。この経験を活かし、患者さん一人ひとりの手の形や動きにぴったりフィットするような、本当に使いやすいものを作っていきたいです。

司会：ありがとうございます。では最後に、今後の具体的な活用アイデアについて教えてください。

郡山：はい、私が今考えているのは、栄養補助ゼリーのキャップを開けるための専用オープナーです。患者さんによっては、あの小さなキャップを開けるのが難しい方もいらっしゃると思います。そういった、まさに「かゆい所に手が届く」支援を形にしていきたいです。



リハビリに使う道具。大きさ、厚さなど用途によって簡単に作り変えることが可能。



3Dプリンターで製作した自助具の一例。握力の弱い方でもキャップを開けやすい「ペットボトルオープナー」

患者さんの声



もともとペットボトルが空けられなかったが、作っていただいて自分であけられるようになりました。とても重宝しています。家に帰っても使います。



正門 由久 副院長

・日本リハビリテーション医学会 副理事長
・日本臨床神経生理学 名誉会員・監事
・日本運動療法学会 理事長
・日本ボツリヌス治療学会 理事長

長年にわたりリハビリテーション医療の最前線で患者の社会復帰を支援。常に新しい技術にアンテナを張り、治療の可能性を追求している。

3D プリンター × リハビリ

無限の可能性



正門 由久 副院長

作業療法士 志田主任

作業療法士1年目 郡山